

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	夜間避難所の体験 (小学校高学年の子供達)
事業主体 (連絡先)	長野県小諸市市区 市区区長 町田隆
事業区分	安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	534,060円 (うち支援金: 413,000円)

#### 事業内容

- 1 実施日 令和元年8月10日(土)夜 ~ 11日朝
- 2 実施場所 市区農事集会所1階2階
- 3 実施方法 市区防災委員会メンバー、小学校PTA役員、消防団の協力体制で実施。水道、電気、水洗トイレは一切使用せず、「元気づくり支援金にて購入の簡易トイレ、照明器具等を使用し、2階に女子、1階に男子にて泊まり、ヘッドライト付ヘルメットを着用し移動するという、被災し避難所の生活を実体験をした。
- 4 モデル的では発展性のある事業である理由:他地域での実施の参考に地域防災の一環である避難所の体験を子供たちが体験することにより、その体験が地域住民の防災意識の高揚になり、市役所での展示などを通じて他の地域での実施参考になる。

#### 事業効果

今回は、初めての開催の為に、参加者が他事業と重なってしまった。(夏祭り終了後に実施)

参加人員 子供達 9名 (参加予定30名)  
 PTA役員 6名  
 防災委員会 4名  
 消防団 3名

簡易トイレは子供達全員、体験済み。

当日、報道(こもろコミュニティーテレビ、小諸新聞社)の取材があり、参加児童の前向きな感想が地域に発信できた。

区長はじめ、防災委員、消防団、PTA役員は、避難所体験を行うとともに、当日、子供たちの安否確認、緊急事態を対処するため、夜間付き添い体制をとる。

以上のように、参加する子供達が少なかったのですが、来年度以降は開催時期、実施体験内容の充実(防災食調理実習等)の検討をし、参加者を増やすよう計画をたてる。

参加した子供達、PTA役員からの感想文を、参加者名簿等を、防災委員会にて管理、保管する。

<避難所体験者> 22名

<避難所生活体験者、対応検討に係わる情報の観覧者数> 約600名 (市役所防災展示期間中の来庁者見込み数の約2倍)

就寝するがなかなか寝付けない



暑さ対策の冷水タオル



就寝



取材を受ける子供達



**今後の取り組み**

- 1 今年の反省を踏まえ、開催時期、体験内容等の充実を図る。
- 2 近年、幾つかの災害が度重なる事態の中、いつ我が小諸市にも襲い掛かるのかを踏まえ、大人はもちろん、子供達にも「防災」について意識を高めていく為、今回の体験を継続していきたい。
- 3 最終的には、小学校「美南ガ丘小学校」が一丸となり、体育館での夜間避難所体験を実施していきたい。
- 4 今回は一泊の避難所体験を実施しました。子供たちは、環境の違う場所でもかも夏場でしたので蒸し暑い中、なかなか寝付けない子が多く、一夜を過ごしました。  
(子供達の感想文より抜粋)
  - ・避難所は思った以上に身体的精神的なストレスを感じ、実際の被災された方の苦痛が理解できた。普通に電気、水道等自由に使える生活できることは幸せだ。
  - ・普通の当たり前の生活がありがたく思える。このような貴重な体験を通して、災害についてみんなで考えていかなければならない。
  - ・災害が起きた時、みんなで公民館へ泊まり、過ごすかと思うと、改めて災害の恐ろしさを感じた。以上のような子供達からの体験後の感想文からは、とても前向きな意見が多くこれからも継続していければと思います。
- 5 次年度は、実施時期を検討し、防災食をみんなで作る体験も考えています。普段家ではおいしいものを自由に食べることができますが、備蓄食を工夫して実習していきたいと思います。  
「食べることは生きること」
- 6 市区から実施内容をメディアをとおして小諸市全体へ発信し、市全体で「防災」について取り組みができればと思います。

取材を受ける区長



区長より防災の説明



簡易トイレ、みんな体験しました



**【目標・ねらい】**

- ① 実際に避難所体験を行うことで、避難所生活の不便さ、災害の恐ろしさを認識し、日頃から「防災」についての意識を高める。

**※自己評価【A】**

**【理由】**

子供たちの参加人数は少なかったが、体験をとおし子供たちの「防災」についての意識が高まった体験となった。貴重な体験をこれからも継続していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある